



vol. 60 / 2016 Spring

肌と色彩の心理学

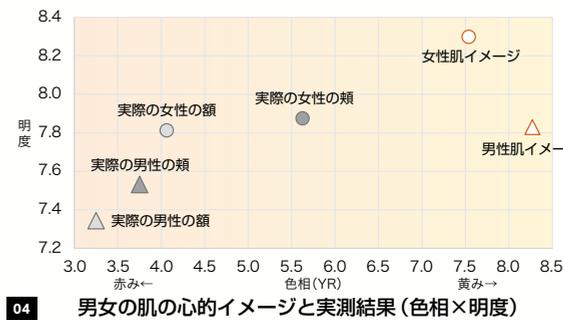
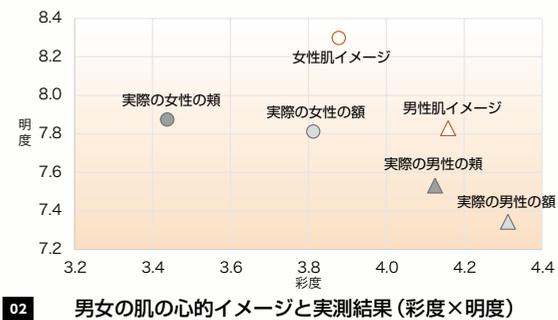
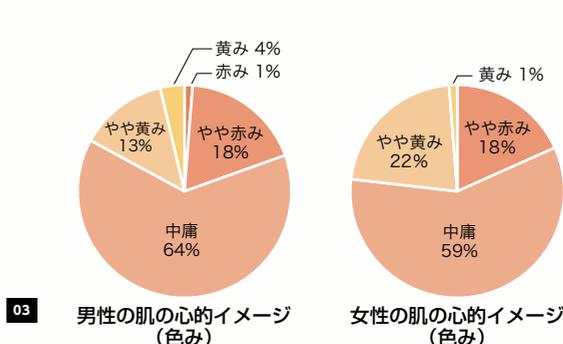
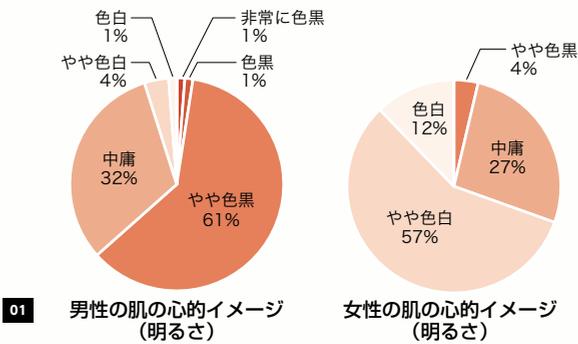
第1回 女性の肌, 男性の肌

いきなりの質問で恐縮ですが、皆さんに問題です。
 「日本人の女性と男性の肌の色は同じでしょうか？」
 この質問に対して、「個人差が大きいから答えようがない」と、
 やや憤りを感じた方もいるかもしれません。それも素晴らしい答
 えです。確かに、肌の色は十人十色。個人差が目立つだけであ
 同じ人であっても顔や腕といった部位の違いがある上、その時の
 感情状態や季節によっても微妙に変化します。色彩学が扱う中
 も、トップクラスの繊細さがあることは間違いありません。
 とはいえ、何らかの答えを心の中で呟かれた方も少なくないで
 しょう。「色黒」「やや色白」「やや色黒」を選んで傾向が強く、男性に
 対しては女性よりも色黒寄りの回答が多いことが統計的にも確認
 されました。実際に下の写真のような色見本を見ながら判断さ
 れた結果でも、女性には対男性よりも高明度・低彩度の色が選ば
 れました。これらは若い女性を対象とした調査の結果ではあり
 ますが、「女性の方が色白、男性の方が色黒」という答えが大半を
 占めたというわけです。
 では、ここでもう一問。
 「日本人の女性と男性の肌の色は同じでしょうか？」
 今度は「色み」、色相(Hue)に特化した質問です。「黄み寄り」
 「やや赤み寄り」などの言葉が選択肢の場合には傾向が不明瞭だっ

たものの、色見本を用いた調査では、女性に対して男性よりも
 赤み寄りの色が選ばれるという傾向が見られました。
 ここまでの内容は、人が抱く男女の肌の心的イメージ。気になる
 のは、実際にはどうなのかということでしょう。若い男女の肌を測
 ると、女性の方が男性よりも色白(高明度・低彩度)、男性の方が女性
 よりも色黒(低明度・高彩度)であるとの結果が得られます。ここま
 ではイメージの通りなのですが、色みについては全く逆で、実際
 は女性の方が男性よりも黄み傾向、男性の方が赤み傾向なのです。
 何故こうした傾向となるかは明らかではありませんが、一因と
 して、再現される肌の色の影響が考えられます。私たちがテレビ
 や雑誌等の各種のメディアを通じて目にする人の肌の色は、現実
 そのままではなく、大小の調整が加えられるのが常です。実際の
 男女の姿以上に、そうして作り上げられた像をも吸収した結果が、
 イメージと現実の肌を見比べてみてください。

埼玉女子短期大学 国際コミュニケーション学科 教授
 山田 雅子

▼肌の色見本。ほぼYR(黄赤)のみという狭い色相範囲でも、
 非常に多くの色数が用意されています



▲言葉を選択肢とした男女の肌のイメージ調査結果(対象:女子学生80名)

▲色見本によるイメージの選択結果(対象:女子学生80名)と男女の肌の実測結果(対象:平均約23歳の男女各16名)